

# 全労金2016春季生活闘争ニュース・第26号

《合意速報No. 7》

## 近畿労組が金庫との団体交渉で、基本合意を表明しました！

近畿労組は、3月29日、金庫と「団体交渉」を開催し、基本合意を表明しました。要求と回答は以下の通りです。

	要 求				回 答			
	正職員	準職員			正職員	準職員		
		A	B	C		A	B	C
安定雇用	—	無期転換権の付与(3年、無条件) (現行は雇用年数5年、人事考課)			—	準職員A Bは 無期転換権の付与(3年、無条件)		
基本賃金	—	月額3,000円の引き上げ			—	人事制度協議課題とする 要求主旨を踏まえ、別途25,000円を支給		
一時金	4.2	4.2	1.68	0.42	4.2	4.2	1.68	0.42
退職金	—	— (制度あり)			—	— (制度あり)		
雇用環境	— (「ジョブリターン制度の確立」を制度協議)				— (「ジョブリターン制度の確立」を制度協議)			
ワークライフ バランス	— (年次有給休暇積立制度の確立を制度協議)				— (年次有給休暇積立制度の確立を制度協議)			

団体交渉において、金庫からは、「『安定雇用』『基本賃金』については、金庫として、人事制度課題であると捉えているが、今後、労組とも協議を行い、2016年度下期以降に制度を見直していく予定としているため、労組の要求主旨に一定応える内容とした。『年間一時金』については、当期純利益は計画を達成する見込であるが、貸出金利息は未達成で、次年度以降も貸出金利息の減少が見込まれる。そういった状況の中、昨年度実績を下回る要求は、現在の経営状況や今後の厳しい見通しを踏まえた労組の判断として重く受け止めている。第6次中計の達成、及び、金庫事業を継続させるための、中長期的な視点に立った判断とともに、次年度に向けた組合員・職員への期待を勘案した。本日の妥結に至る交渉過程では、金庫の経営状況や経営見通しだけでなく、現場における課題と要因、課題解決に向けた労使の役割と行動について、これまで以上に踏み込んで議論できたと認識している。この間の交渉において浮き彫りとなった課題を、労使で責任をもって克服するとともに、次年度も収益構造の改善、生産性の向上に向けた貴労働組合の取り組みと組合員のさらなる行動を期待したい」等の見解が表明されました。

奥中闘争委員長は、「労働組合は、金庫の収益面の見通しが、短期的にも中長期的にも予断を許さない厳しい状況である、という認識を十分に持った上で、要求を組み立てた。厳しい状況であるからこそ、職場の安定化と職員の働きがい向上が不可欠であることから“準職員の安定雇用、処遇改善の実現”を求めた。『安定雇用』と『基本賃金』については、満額回答ではなかったものの、金庫から『準職員が正職員と同様に貴重な存在である』という認識が示され、最大限の努力と判断が示されたを受け止める。また、今春闘は、労使がお互いを認め合い、課題認識を共有しながら、“今の状況をどのようにして打開していくべきか”という前向きな議論を行うこと、そして、職員が前を向けるメッセージを発信できるかが大きなポイントであった。それは、厳しい経営状況を単に悲観することや、他人任せにするのではなく、役職員が一丸となって打開していくことに繋げる必要があるからだ。交渉を通じて『春闘交渉以降の協議で課題解決を図ること』『労使が果たすべき役割と行動』を確認した。この姿勢は、労働組合として“守るべきものは守り、変えるべきところは変える”というスタンスと共に、近畿ろうきんを守り、発展させるため、役職員が一丸となって難局を乗り越えていく“決意”の表れである。労使の決意と信頼関係を基にして、事業・運動の健全な発展と、職員・組合員の働きがい向上に向け、双方の役割と責任を果たしあっていきたい」等を表明しました。

単組は、2016春闘は、金庫の経営状況や今後の厳しい見通しを踏まえた上で、単に状況や見通しを悲観することや、他人任せにするのではなく、「役職員が一丸となって、近畿ろうきんのチーム力でこの危機を打開していこう！！」というメッセージを労使で発信し、危機的状況から脱却するためのターニングポイントとなるような春闘にしなければならないという考えのもと、個別要求項目について、①準職員に関する要求（安定雇用・基本賃金）については、金庫から「準職員は正職員と同様に貴重な存在との認識」「準職員の思いは金庫としても重く受け止めている」「この春闘でどのように応えるのかを考えなければならない」との考えが示され、具体的な回答が示されたこと、②交渉の中で、「春闘以降の協議で各課題に対する解決を図っていくこと」「労使が果たすべき役割や行動を確認したこと」や、金庫の「すべての要求項目に対して、最大限の努力をして回答を示した」という真摯な姿勢、等から合意を判断しました。

\*合意単組：7単組（3月29日19時15分現在）

北海道・中央・中国・沖縄・静岡・長野・近畿

以 上